会　議　録

1　会議名	第６回南砺市協働のまちづくり推進会議
2　議題（公開）	１．市民との情報共有部会の活動報告について ２．小提言に関する承認について 　①人材活用リストの作成及び活用について 　②中間支援組織の設置について
3　開催日時	平成３０年１０月２３日（火） 開会時間：午後７時／閉会時間：午後８時５０分
4　開催場所	井波コミュニティプラザ「アスモ」２階　大ホール
5　会議出席者	［委員：出席１５名／全２０名］　※５０音順 石岡敬夫、磯辺文雄、江田　攻、江川由貴子、齋藤優華、定村　誠、竹部俊恵、中井邦夫、名村桂子、能登貴史、松本久介、南　眞司、長谷川邦子、林　則雄 ※欠席委員：長田正勝、川田將晴、俵　圭子、中山繁實、宮川義文、吉田信一郎 ［市：出席４名］ 事務局 南砺で暮らしません課長　市川孝弘 〃　協働のまちづくり　副主幹　中島千帆 〃　〃　〃　勇﨑香志 〃　〃　主事　影近宏紀
6　傍聴者	０名
7　決定事項	１．専門部会「市民との情報共有部会」の活動報告について 　資料２のとおり ２．小提言に関する承認について 　①人材活用リストの作成及び活用について 　　これまでに市で行ってきた各種人材育成事業受講者、各種委員会公募委員等のリストを作成し、自治振興会へ配布し、まちづくりのスタッフとして活用を促すとともに、受講者等にもまちづくりに積極的に関わるよう促すことを目的とする。 　②中間支援組織の設置について 　　来年度からスタートする小規模多機能自治の手法を用いた住民自治に対して、各地区では手探りの状態であり、事務スタッフも必要な知識を備えていない可能性がある。地区の相談窓口として中間支援組織を設置し、各種講座等を開催するコーディネーターを配置することを目的とする。 ３．市長提言日程について 　　１０月末～１１月初旬を予定

８　会議内容	１．市民との情報共有部会の活動報告について 　市民との情報共有部会長の部会長より資料２をもとに活動報告後、委員より質問や意見の発言と事務局の応答（次のとおり）。 （Ａ委員）結果は、やっぱりなという感じ。 　現在、地区で全住民アンケートを行っているが、どのように分析し、集計結果を公表しているのか。 （Ｂ委員）わが地区ではアンケートを終え９０％以上の回収率だった。記述式の質問にも多く記入されていた。大変まじめに回答いただいたので、全住民にフィードバックしたいと思っている。分析については年代により数の違いがあるのでどのように比較したらよいのか迷うところである。 （Ｃ委員）富山県内の障がい者家族対象のアンケートをおこなったが、その結果のダイジェスト版をつくるために１年かけてワークショップ等を行った。アンケート結果を生かすも殺すも各地区しだいだと思う。 （Ａ委員）アンケート集計を行うことが部会へつながるかもしれない。 （Ｃ委員）結果を部会に渡して、課題を見つけてもらうのも方法のひとつ。 （委員長）わが地区でもアンケートを行ったが、単純集計だけはすぐに公表したいが、分析については、主に部会に入っていただく皆さんに行ってもらうというやり方でいくつもり。将来的に事業展開する際には全部公表する必要はあると思う。 （Ｂ委員）組織の構成人数について考えなければならない時期に来ているが、４月に一斉スタートしても特に何も変わらないのが実情であろう。少しずつ地区がよくなってきたと感じられればよい。アンケートは、何を始めるかステップアップするのかの判断材料になる。 （Ｃ委員）意見交換会を終えて、次のステップはどうするのか。現状から課題を見つけ、提案へつなげていってほしいが、何かアイディアはあるのか。 （部会長）この意見交換会の結果をもとに提言をするのであれば、それぞれの部会で検討材料として使ってもらってもいいのではないか。 （委員長）課題解決のみでなく、啓蒙活動もできるように。 （Ｃ委員）活動報告を見て思ったことは、小規模多機能自治を進めていくうえで、まちづくり基本条例に則っているということを知ってもらうための工夫を考えたらいいのではないか。 （部会長）可能かどうかわからないが、希望をもった１０代が４０代で希望がなくなった理由を知りたい。２０代で南砺市を出て行った人の追跡調査はできないだろうか。２０代で南砺市に希望が残っている人が現在南砺市に住んでいる。出て行った人の気持ちが知りたい。

（Ｃ委員）今の２０～３０歳は、「ゆとり教育」の中で地域教育を受けており、地域のことをよく知っているし、地域のことが好きだと思っているように感じる。私たちとは教育が違うので感じ方も違っていると感じる。

（委員長）アンケート結果は、小規模多機能自治を進めていく中で課題解決に向けた運用のヒントとして扱うことができるものではないか。

（Ａ委員）地域に住んでいる人に地域に対する愛情や誇りが足りない気がする。

（Ｄ委員）この報告書はホームページで公表されると思うが、市民の皆さんの意見がほしい。

（事務局）ホームページからコメントが入れば事務局で対応していくが、コメント入力フォーム等はない。

（Ｅ委員）こんな活動をしましたという報告だけでなく、市民の皆さんに考えてもらうきっかけになってほしい。

（事務局）広報部会と相談しながらやっていきたい。

（委員長）広報１２月号に載せる予定であり、今後運営委員会でも活用方法を考えていきたい。

２．小提言に関する承認について
　副委員長より提言について説明、事務局より小規模多機能自治への進捗状況等を説明後、委員より質問や意見の発言と事務局の応答（次のとおり）。

（副委員長）この提言には明記していないが、中間支援組織は行政の組織ではなく、民間の組織であってもよいという意味を含んでいる。
　９月から行われている住民自治創生セミナーに関して、意識が高い地域は人材を送り込んでおり、ワークショップを通して地区の課題を認識されており、地区間で差が出てきていると感じた。

（Ｆ委員）地区間の差の原因は何だと考えるか？

（副委員長）自治振興会が知られているかどうか認知度の差だと考える。
自治振興会や新しい自治組織のメンバーとなる人がセミナーに参加している。

（Ｆ委員）第３者意識（聞いていないよ＝聞かせてくれ）の人を第１者（自分ごと）に変えていくシステムを作るにはどうしたらいいのか。先ほどの部会報告にもあったが、広報に記載しても誰も読まない。不特定多数の人に情報提供しても無駄である。「待つ」から「行く」システムに変えていかなければならない。

（Ａ委員）「やらされ感」を払拭するには、まずは全員に伝えること。これをやってもウオッチングのままの人はいる。全員が同じ方向を待つのもいいが、

（Ｂ委員）スタート段階において地域間の差があるのは当たり前。進んでいる地区は行政に相談している。進んでいない地区は相談もしていない。わからないまま誤解したまま。

（Ｇ委員）公民館、地区社協は地区によってそれぞれのやり方があるし、誤解している部分もある。自治振興会だけで情報をとめてはならない。

（事務局）セミナーには全地区から参加があった。その最後の講演で「公民館という箱物を使って『塾』をやろう」という内容であったが、参加者の皆さんはこの言葉がストンと腑に落ちたのではないかと思われる。

（委員長）提言の内容については、具体的な内容は決めていないが、将来的には小さな燻りを取り込んでくれる組織、それぞれの集合体をまとめてくれる組織、お互いに意見交換だけでなく専門的な知識を持っている組織になってほしい。仕組みは任せるが、組織は必要だと考える。

（Ｂ委員）そもそも進んでいる地区は、公民館活動が盛んな地区である。皆で助け合う（力を合わせる）というベースがある地区はうまく転換できる。

（Ｄ委員）この提言の一文に「早急に」という言葉は入れることはできるのか。来年スタートに向けて、すでに困っている地区がある。

（Ｂ委員）市では様々なメニューを用意してサポート体制をとっているが、それを使っていないのが現状。

（Ｄ委員）地区（住民の心）に届いていないのではないか。

（委員長）形については問わないし、今後は市民の意見を吸い上げた上でさらに提言をしていけばよいと考える。

（Ａ委員）緊急性はないと思う。今は行政側でサポートしている。スタートして３，４年後になれば専門的な知識やノウハウを持っている組織ができあがるのではないかと考えている。

（委員長）長谷川委員のご意見は、早急に市長提言を進めていくということでよろしいか。

＝＝＝　一同承認　＝＝＝

３．その他意見については、以下のとおり。

〇組織及び（仮称）コミュニティセンターの名称について（追加資料）

（Ｈ委員）この名称で決定なのか。

（Ｂ委員）３１自治振興会の投票により、組織は「地域づくり協議会」、コミュニティセンターは「交流センター」に決定した。

	（H委員）各種組織（公民館連合会等）の名称変更にも関わることだが、正式にこうなりましたと伝えてよろしいか。 （事務局）この名称については議会で議決する事項ではない。すでに議会に報告し新聞等にも掲載されている。ただし、交流センターについてはパブリックコメントや３月議会での議決を得てから決定ということになる。 （Ｂ委員）教育委員会とは調整できているのか。 （事務局）教育委員会とは調整しているところであり、社会教育に関する連絡会は４月に全地区がスタートすれば単純に「生涯学習リーダー会議」となる。できなかった場合は交流センターと公民館が混在することになる。 （Ｉ委員）現在の公民館長が生涯学習リーダーになるのか？ （事務局）ならない。あくまでも機能がこのようになるという意味。 〇提言の時期について （事務局）時期はいつ頃を予定しているのか教えてください。 （委員長）早ければ早いほどよい。今月末か来月初旬が望ましい。 提言方法については、委員長と副委員長、部会長が提言書を提出するかたちで一任していただきたいが、よろしいか。 ＝＝＝　一同承認　＝＝＝
	副委員長が挨拶し、会議を閉じる 終了　２０時５０分